

第3回山口県立大学将来構想検討委員会の概要

- 1 開催日時 令和3年10月6日（水） 13:30～15:30
- 2 場 所 山口県立大学北キャンパス3号館3階C309教室
- 3 出席者 委員 13名、事務局 16名
- 4 議 題 山口県立大学のあり方について
・社会福祉学部及び看護栄養学部について

委員からの主な意見

- ・多職種との連携を学ぶ教育を続け、福祉や教育など様々な視点から人を支えていける人材を育てていただきたい。
- ・福祉の分野では、高齢化はもちろん、地域の力が弱まったことにより、買い物や生活そのものが困難になって日常生活に障害が出るなど、地域で色々な困りごと、問題が発生し、社会福祉士等の活躍の場が非常に増えている。
- ・山口県においても、多種多様な相談を受け入れるという役割の総合相談窓口を、来年から包括支援センターの中に設置していくことが始まり、社会福祉士の活躍の幅がますます広がっていく。
- ・福祉施設を運営していく上で相談員又は指導員が非常に大きな役割を果たし、高い専門性を求められるが、福祉業界の中でそういった人材を大切に育てていく仕組みが弱いと思われることが大きな課題であり、大学と共に人材を育成する体制を構築していく必要がある。
- ・山口県では看護師が全体的に不足するとともに、看護師の就職先の偏在も課題となっている。萩・長門地区における看護師の定着など、同じく県立の萩看護学校との連携も視野に入れ、県内の看護師養成と就業を一体となって進めていただきたい。
- ・学生は大規模病院を希望するが、県内では特に中小規模の病院が看護師を必要としており、今後どうすればお互いがウィンウィンになれるか関係団体と一緒に考えていかなければならない。新人の離職を少なくするためにも大学教育の中で、自分に合った就業先を考えていけるようにすることが大切である。
- ・現在、介護や在宅など多様な場で看護が求められる。新卒者に訪問看護師として就業していただかなければ在宅医療が担えない現状もあり、看護教育の中では、そのような状況を踏まえたカリキュラムも考えていただきたい。
- ・コロナ禍により臨地実習が十分できず、今年就業した看護師は看護技術に不安を抱えていると言われている。県立大学には看護研修センターも設置されており、新人のフォロー体制の構築に関係団体と一緒に取り組んでいただければと考える。

- ・ 県立大学の看護研修センターでは、今後必要とされる訪問看護などで、看護師が医師の統括的な指示の下に独立して一定の診療補助ができる特定行為の研修にも取り組まれている。在宅医療を考える上では特定行為研修を終えた看護師が必要となっていくため、各自治体においても受講の促進など大学の取組を支援していただきたい。
- ・ 福祉や医療の分野にもASEAN等から多くの人材が入って来ている。社会福祉学部や看護栄養学部においても、異文化理解や多文化共生に関する知識を学ぶことや、グローバルな視点を持つことは重要である。
- ・ 不登校や子育ての相談は増えており、子どもを家庭で育てる力が弱くなっていると感じる。発達障害など何らかの配慮が必要な子どもも非常に多くなっており、小さいときからの教育・療育が重要となっている。
- ・ 今、発達障害や気になるお子さんが非常に増えており、特別支援に関しては数多くの研修があるが、系統立てたものがないと感じている。山口県乳幼児の育ちと学び支援センターと協力して順序立てた研修を実施していただきたい。
- ・ 現在、保育士には相談援助などソーシャルワーク機能が求められ、潜在保育士が現場に復帰する際に大きな不安要因となっている。県立大学や山口県乳幼児の育ちと学び支援センターには、保育の現場に戻りたいと思う方が戻るための環境づくりへの支援も期待する。
- ・ 保育者がスーパーバイザー的に相談できる場所や助言を得られる場所があると助かり、「子ども家庭ソーシャルワークセンター(仮称)」構想については、必要で時代のニーズに合った取組だと考える。
- ・ 幼児教育・保育の無償化が行われ、県内には認可保育所や幼稚園、認定こども園、児童養護施設など幼稚園教諭や保育士を求める500以上の施設があり、そういった施設が新規採用を求めて学生が足りないとともに、離職率も高く、幼稚園・保育所等の人材確保が大きな課題となっている。
- ・ 幼保連携型認定こども園は、保育教諭として保育士、幼稚園教諭の両方の資格が必要であるとともに、幼稚園教諭一種免許状の先生が必要となる職場であり、その展開とともに4年制大学における幼稚園教諭・保育士の養成が大事になる。
- ・ 県内には4年制の養成大学が少なく、県立大学には幼稚園教諭・保育士を養成していただきたいと強く願う。特に専門性向上への支援から始めて県内の養成大学等との連携や機能分担を整理し、その上で学部・学科の創設など、子どもを育てる人材の育成に関わる姿を期待したい。
- ・ 看護師や保育士等を現場で孤立させないためや潜在的なスキルを持っている方の復帰等を支援するためには、リモートでエキスパートがしっかり支援する仕組みや、時間軸や定員にとらわれずリモートで参加できる研修も有効と思われ、県立大学がその役割を果たすことが期待される。